

日 本 国 特 許 庁
JAPAN PATENT OFFICE

21.11.03

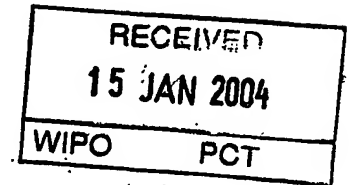
別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されている事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed with this Office.

出 願 年 月 日 2 0 0 3 年 9 月 3 0 日
Date of Application:

出 願 番 号 特 願 2 0 0 3 - 3 4 0 2 0 4
Application Number:
[ST. 10/C] : [J P 2 0 0 3 - 3 4 0 2 0 4]

出 願 人 日 本 エ イ テ ッ ク ス 株 式 会 社
Applicant(s):

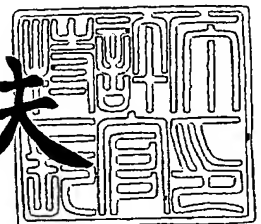


**PRIORITY
DOCUMENT**
SUBMITTED OR TRANSMITTED IN
COMPLIANCE WITH RULE 17.1(a) OR (b)

2 0 0 3 年 1 2 月 2 6 日

特許庁長官
Commissioner,
Japan Patent Office

今 井 康 夫



BEST AVAILABLE COPY

出証番号 出証特 2 0 0 3 - 3 1 0 7 7 8 4

【書類名】 特許願
【整理番号】 P1509028
【あて先】 特許庁長官殿
【国際特許分類】 A47D 13/02
【発明者】
 【住所又は居所】 東京都北区中里2丁目26番2号 日本エイテックス株式会社内
 【氏名】 八木澤 誠
【特許出願人】
 【識別番号】 000228051
 【氏名又は名称】 日本エイテックス株式会社
【代理人】
 【識別番号】 100109955
 【弁理士】
 【氏名又は名称】 細井 貞行
【選任した代理人】
 【識別番号】 100090619
 【弁理士】
 【氏名又は名称】 長南 満輝男
【選任した代理人】
 【識別番号】 100111785
 【弁理士】
 【氏名又は名称】 石渡 英房
【先の出願に基づく優先権主張】
 【出願番号】 実願2003-270268
 【出願日】 平成15年 7月29日
【手数料の表示】
 【予納台帳番号】 145725
 【納付金額】 21,000円
【提出物件の目録】
 【物件名】 特許請求の範囲 1
 【物件名】 明細書 1
 【物件名】 図面 1
 【物件名】 要約書 1

【書類名】 特許請求の範囲**【請求項 1】**

斜め掛けに一方の肩に掛ける肩ベルトであって、該肩ベルトの途中に、肩先を挟んで肩上面に掛かる肩掛止ベルト部分と、肩先近傍の上腕外面に掛かる上腕掛止ベルト部分を備えていることを特徴とする肩ベルト。

【請求項 2】

上記肩掛止ベルト部分と、上腕掛止ベルト部分は、一対の肩ベルトパーツの各先端部を、互いに重なり合って長さ方向の中央部分は水平方向にずれるよう設けた二本の連繫ベルトで連繫してなることを特徴とする請求項 1 記載の肩ベルト。

【請求項 3】

上記連繫ベルトは、外側に湾曲形成すると共に、袋状となし、その内側にパッドを設けたことを特徴とする請求項 2 記載の肩ベルト。

【請求項 4】

上記肩掛止ベルト部分と、上腕掛止ベルト部分は、一本の肩ベルトパーツの、使用者の肩に掛かる部分に対応位置して、肩ベルトパーツと少なくとも両端部で重なり合って、長さ方向の中央部分ではベルト幅方向に開くよう補助ベルトの両端部を前記肩ベルトパーツに縫合して形成したことを特徴とする請求項 1 記載の肩ベルト。

【請求項 5】

上記肩掛止ベルト部分と、上腕掛止ベルト部分は、ベルトの当該箇所に、該ベルトの長手方向に沿ってスリット又は開口を形成して、ベルトの幅方向を二本に分割して形成したことを特徴とする請求項 1 記載の肩ベルト。

【請求項 6】

上記肩掛止ベルト部分と、上腕掛止ベルト部分の開き量は調整自在としたことを特徴とする請求項 1 乃至 5 の何れか 1 項に記載の肩ベルト。

【請求項 7】

上記請求項 1 乃至 6 の何れか 1 項記載の肩ベルトを取り付けた子守帯。

【書類名】明細書

【発明の名称】肩ベルト及びその肩ベルトを備えた子守帯

【技術分野】

【0001】

本発明は、子守帯やバッグなどに取り付けられる肩ベルトに係り、特に、斜め掛け（襷掛け）に一方の肩に掛けて使用するものに関する。

【背景技術】

【0002】

従来の、斜め掛けに一方の肩に掛けて使用する肩ベルトは、使用者の肩に当たる部分に、パッドを縫合したり移動可能に挿通して取り付けたものが一般的であった（例えば、特許文献1参照）。

又、肩ベルトとして幅広の布地を用い、その布地を肩上面から上腕外面に亘って掛けるようにしたものもある（例えば、特許文献2参照）。

【特許文献1】特開2001-078857号公報

【特許文献2】実用新案登録第3083231号公報

【発明の開示】

【発明が解決しようとする課題】

【0003】

ところで、上記した特許文献1に記載の肩ベルトは、肩上面に対する肩ベルトの当たりを緩和することはできても、該肩ベルトが保持する荷重（子守帯であれば乳幼児の体重、バッグであれば内容物重量を含めたバッグ重量）は肩ベルトが掛かる部分に集中的に作用することになる。それにより、使用者に苦痛を与えるという不都合があった。

【0004】

又、特許文献2に記載の幅広の布からなる肩布紐は、確かに肩上面から肩先を跨いで上腕外面に亘って掛かるが、軟らかい布地である為、該肩紐が引っ掛かる位置は肩先部分である。そして、一枚の布地であるため、肩先に掛かった布は肩上面側へ、或いは上腕外面側へ滑り移動し、肩からずれ落ちるといった不具合を有する。更に、荷重の負担についても特許文献1と同様、肩に集中的に掛かって使用者に苦痛を与えるという不具合を有する。

【0005】

本発明は上記した従来の技術が有する問題点に鑑みてなされたもので、その目的とするところは集中的に荷重が掛かるのを解消し、苦痛を感じることなく快適に使用することができる肩ベルトを提供することにある。

又、他の目的は、ずれ落ちたりする事なく安定良く掛けることが出来る肩ベルトを提供することにある。

更に、他の目的は、苦痛を感じることなく快適に使用することができる子守帯を提供することにある。

【課題を解決するための手段】

【0006】

上記目的を達成する為に本発明が講じた技術的手段は、斜め掛けに一方の肩に掛ける肩ベルトであって、該肩ベルトの途中に、肩先を挟んで肩上面に掛かる肩掛止ベルト部分と、肩先近傍の上腕外面に掛かる上腕掛止ベルト部分を備えた構成を特徴とする（請求項1）。

【0007】

上記肩ベルトに肩掛止ベルト部分と上腕掛止ベルト部分を設ける方法としては、二本のベルトを用いて構成する。

その具体的構成は、一対の肩ベルトパーツの各先端部を、互いに重なり合って長さ方向の中央部分は水平方向（ベルト幅方向）にずれる（開く）よう設けた二本の連繋ベルトで連繋してなることを特徴とする（請求項2）。

【0008】

上記連繫ベルトは、外側に湾曲形成すると共に、袋状となし、その内側にパッドを設けたことを特徴とする（請求項3）。

【0009】

又、二本のベルトを用いて構成する他の形態は、上記肩掛止ベルト部分と、上腕掛止ベルト部分は、一本の肩ベルトパーツの、使用者の肩に掛かる部分に対応位置して、肩ベルトパーツと少なくとも両端部で重なり合って、長さ方向の中央部分では水平方向（ベルト幅方向）にずれる（開く）よう補助ベルトの両端部を前記肩ベルトパーツに縫合して形成したことを特徴とする（請求項4）。即ち、一本の肩ベルトパーツに、補助ベルトの両端部をバイパス様に縫合して形成する。

【0010】

上記肩ベルトに肩掛止ベルト部分と上腕掛止ベルト部分を設ける方法としては、一本のベルトを用いて構成することも可能である。

即ち、1本の肩ベルトにおける肩部分に掛かる当該箇所、該ベルトの長手方向に沿ってスリット又は開口を形成してベルトの幅方向を二本に分割して形成する（請求項5）。尚、この場合、肩ベルト全体を一本で構成しても、或いは一对の肩ベルトパーツの先端部を、前記二分割した肩ベルトに連結して構成してもよい。

【0011】

上記肩掛止ベルト部分と上腕掛止ベルト部分は、水平方向にずれて（開いて）肩上面及び上腕外面に掛かるが、その開き量は調整自在としてもよい（請求項6）。

具体的には、例えば、肩掛止ベルト部分と上腕掛止ベルト部分のベルト幅方向の内側縁をストッパ付きファスナーで連結し、ストッパの位置を変えることでファスナーの開き量を調整する。或いは、肩掛止ベルト部分と上腕掛止ベルト部分のベルト幅方向の内側縁に沿って所定間隔毎に止め具を設け、その止め具の掛け止め位置を変えることで開き量を調整する。

【0012】

そして、上記の肩ベルトはバッグや子守帯等に使用されるが、具体的には請求項1乃至6の何れか1項に記載の肩ベルトを取り付けた子守帯とする（請求項7）。

【発明の効果】

【0013】

本発明の肩ベルトは請求項1記載の構成により、肩ベルトを斜め掛けした場合、肩上面に肩掛止ベルト部分が、肩先近傍の上腕外面に上腕掛止ベルト部分が分かれて掛止される。従って、肩ベルトは肩先を挟んで二箇所支持され、肩ベルトがズレ動くのを防止できる。また、荷重は前記した二箇所に分散され、荷重が肩に集中的に掛かって使用者に苦痛を与えていた従来の問題点を解消する。

【0014】

そして、肩掛止ベルト部分と上腕掛止ベルト部分を請求項2記載の構成により形成した場合は、使用者の肩先端部分が両連繫ベルトの間に割り込み、各連繫ベルトが上腕と肩に掛かる状態となるので、上腕と肩の二箇所支持するので、肩からずれ落ちたり、荷重が肩に集中的にかかって使用者に苦痛を与えることがないという作用効果がある。

【0015】

又、上記連繫ベルトを請求項3記載の構成とした場合は、連繫ベルト、即ち、肩掛止ベルト部分と上腕掛止ベルト部分が上腕や肩を強く圧迫せず、長時間の使用を可能にする肩ベルトを提供できる。

【0016】

更に、肩掛止ベルト部分と上腕掛止ベルト部分を請求項4記載の構成により形成した場合は、使用者の肩の先端部分が、肩ベルトパーツと補助ベルトの間に割り込み、肩ベルトパーツと補助ベルトとが上腕と肩に掛かった状態となるので、肩からずれ落ちたり、荷重が肩に集中的に掛かって使用者に苦痛を与えることがないとともに、肩ベルトパーツは、一本で構成されているので、強度的に優れているという作用効果がある。

【0017】

又、肩掛止ベルト部分と上腕掛止ベルト部分を請求項5記載の構成により形成した場合は、上記した作用効果を奏する肩ベルトを容易に製作することが出来る。

【0018】

また、上記肩掛止ベルト部分と上腕掛止ベルト部分の開き量を請求項6によって調整自在とした場合は、使用者の肩部分の体型（大きさ、厚さ等）に合わせて開き量を最適な状態に調整し、安定した掛け止めを得ることができる。

【0019】

更に、上記の肩ベルトを子守帯を設けた場合は、乳幼児を安定よく抱っこすることができ、しかも長時間使用しても荷重が分散される為、疲労を軽減できる子守帯を提供できる。

【発明を実施するための最良の形態】

【0020】

一方の肩から反対側の腰に向かって襷掛けする肩ベルトは、身体の前側と背中側に位置する一対の肩ベルトパーツの各先端部を、互いに重なり合って長さ方向の中央部分は水平方向にずれるよう設けた二本の連繫ベルトで連繫する。そして、その二本の連繫ベルトは、肩上面に掛かる肩掛止ベルト部分と、肩先近傍の上腕外面に掛かる上腕掛止ベルト部分とし、肩先を挟んで肩上面と上腕外面に掛かり、肩ベルトが受ける荷重を分散支持する。

又、上記二本の連繫ベルトは、何れも外側に湾曲形成すると共に、袋状となし、その内側にパッドを設けて、肩上面及び上腕外面に対して安定よく、且つ圧迫せずに掛止するようにする。

【実施例1】

【0021】

次に、本発明を子守帯に適用した好適な実施形態を添付図面の図1～図6に基づいて詳細に説明する。

図1～図3に示すように、肩ベルト1は、一対の肩ベルトパーツ2の各先端部に、使用者の肩先近傍の肩上面に掛ける連繫ベルト（肩掛止ベルト部分）3a両先端と、使用者の肩先近傍の上腕外面に掛ける連繫ベルト（上腕掛止ベルト部分）3b両先端とを重ね合わせ、この各重ね合わせ部分を縫合することによって連繫してなる。

【0022】

図1～図3に示すように、各連繫ベルト3a、3bは、平面形状が湾曲し、かつ、扁平な袋状に形成し、それぞれの内側にはパッド4を挿入してある。また、前記各連繫ベルト3a、3bは、前記湾曲形状の突部側縁がそれぞれ外縁となるように、かつ、少なくともその中央部分で水平方向に移動しうるように配置し、連繫ベルト3aの両端部を各肩ベルトパーツ2先端の上面側に、また連繫ベルト3b端部を各肩ベルトパーツ2先端の下面側にそれぞれ重ね合わせて、縫合してある。

【0023】

図4に示すように、肩ベルト1を適用した子守帯5は、座らせた乳幼児の臀部、腰部、背部が当たる背当て部6と、この背当て部6の下縁部に設け、使用者のウェストに巻いて前記背当て部6の下縁部を使用者に固定するためのウェストベルト7と、前記背当て部6の上縁両端に各基端を縫合すると共に、前記肩ベルト1の両端に離脱可能かつ長さ調節可能に連結するための連結具8aをそれぞれ先端に備えた一対の連結バンド8とからなる。なお、図4中、符号9はポケット口、符号10は手荷物などを吊り下げるための係止用リングバンド、符号11aは前記ウェストベルト7の両先端に設けた雄係脱具、符号11bは同じく前記雄係脱具11aに係脱する雌係脱具である。

【0024】

図5によって、使用者が左肩に肩ベルト1をかけて乳幼児を抱っこする子守帯5の使用方法を説明する。まず、使用者は、肩ベルト1の両先端を、使用時に連結ベルト3aが自身の左肩側になるように、背当て部6の各連結バンド8先端に連結した後に、自身のウェストにウェストベルト7を巻き、肩ベルト1を左肩に掛けてから、乳幼児を背当て部6に寝かせ、連結具8aにより肩ベルト1の長さ調節をして安定させ、肩ベルト1の各連繫ベ

ルト3間に肩先端を割り込ませ、各連繫ベルト3 a, 3 bを肩先近傍の肩側と上腕側とに掛ける。このようにして乳幼児を抱っこすると、各連繫ベルト3 a, 3 bが肩と上腕とに掛かっているため、荷重が分散されて肩に集中することがなく、また、肩ベルト1がずれ落ちることがない。

【0025】

図6によって、使用者が右肩（前記図5の場合とは逆の肩）に肩ベルト1をかけて乳幼児を抱っこする子守帯5の使用方を説明する。使用者は、肩ベルト1の両先端を、使用時に連結ベルト3 aが自身の右肩側になるように、すなわち、前記左肩に掛ける場合に連結した肩ベルト1の各先端を逆にして、各連結バンド8先端に連結する。以下は、前記図5の場合とは左右が逆である点を除いて同様に乳幼児を抱っこをする。

【0026】

尚、本発明は、上記実施形態になんら限定されるものではなく、例えば、また、連繫ベルト3 a, 3 bの一方を一本の肩ベルトパーツ2で兼用し、この肩ベルトパーツ2の使用者の肩に掛かる部分に対応位置して、連繫ベルト3 a, 3 bの他方である補助ベルトの両端を、肩ベルトパーツ2に、この肩ベルトパーツ2と少なくとも両端部で重なり合っ、中央部分では水平方向にずれるように、縫合して構成したものであってよい。

【実施例2】

【0027】

上記した実施例は肩掛止ベルト部分と上腕掛止ベルト部分を二本の連繫ベルト3 a, 3 bで構成したが、一本のベルトで構成することも可能である。以下、その構成を図面に基き説明する。

図7は、肩ベルトの基本構成を示す外観図で、一方の肩から反対側の腰に向かって襷掛けする所定長さの肩ベルト1 2の途中に、肩先Sを挟んで肩上面に掛かる肩掛止ベルト部分1 2 aと、肩先S近傍の上腕外面に掛かる上腕掛止ベルト部分1 2 bが二又に分岐形成されている。

【0028】

一本のベルトで肩掛止ベルト部分1 2 aと上腕掛止ベルト部分1 2 bを形成する具体的構成は、図8に示すように、肩ベルト1 2における肩部分に掛止する箇所に、該ベルト幅の略中央位置にスリット又は開口1 3を長手方向に沿って所定長さ形成することで、肩ベルト1 2における所定範囲を二本に分割形成する。その二本に分割されたベルトの一方が肩掛止ベルト部分1 2 aであり、もう一方が上腕掛止ベルト部分1 2 bとなる。

【0029】

そして、この場合は一本のベルトをスリット又は開口1 3で二本に分割する為、二分割される部分のベルト幅が他の部分と同じ幅であれば、二分割された部分のベルト幅は半分の幅となる。従って、二分割して形成される肩掛止ベルト部分1 2 aと上腕掛止ベルト部分1 2 bのベルト幅をそれぞれ他の部分のベルト幅と略同じ幅とする場合は、予め当該部分のベルト幅を広く確保して裁断する。

【0030】

又、ベルトの長手方向に沿って形成するスリット又は開口1 3の長さは、該スリット又は開口1 3で二分割されるベルトが開いて、ベルトの一方（肩掛止ベルト部分1 2 a）が肩上面に、他方（上腕掛止ベルト部分1 2 b）が上腕外面に確実に掛止する長さとする。

尚、使用者の体型は異なる為、前記したスリット又は開口1 3で二分割される開き量が一定である場合、体型によっては開き量が小さく肩上面と上腕外面にしっかり掛止できない、或いは体型によっては開き量が大きく肩上面と上腕外面に対する掛止位置がずれ、その結果、しっかり掛止できないということが生じる。こうしたことに対応する為に、スリット又は開口1 3で二分割されるベルト相互の開き量を広狭調整自在としてもよい。

【0031】

その調整手段としては、図9に示すように肩掛止ベルト部分と上腕掛止ベルト部分のベルト幅方向の内側縁をストッパ付きファスナー1 4で連結し、ストッパの位置を変えることでファスナーの開き量を調整する。

【0032】

又、図10に示すように、肩掛止ベルト部分と上腕掛止ベルト部分のベルト幅方向の内側縁に沿って所定間隔毎に釦15aと止め輪15bとを対向配置した止め具15を設け、その釦15aに対する止め輪15bの掛け止め位置を変えることで開き量を調整する。尚、この開き量を調整自在とする場合は、予めスリット又は開口によって開き量を最大に形成し、それを使用者各人が上記した調整手段によって最適な量に調整するようにする。尚、上記調整手段は、図示したようにスリットまたは開口の一方側部分にのみ設ける形態に限らず、スリット又は開口の両側に設けても良いものである。

【0033】

上記した一本のベルトにスリット又は開口13を施して肩掛止ベルト部分と上腕掛止ベルト部分を分岐形成した肩ベルトは、その両端に前示実施例で示したと同様の肩ベルトパーツを連結してもよい。勿論、肩ベルト部分と肩ベルトパーツを一本のベルトで構成してもよいことは言うまでもない。

【産業上の利用可能性】

【0034】

本発明に係る肩ベルトは、肩ベルト1を斜め掛けに一方の肩に掛けて支持するものであれば、子守帯に限らず、バッグなどにも有効に使用できるものである。

【図面の簡単な説明】

【0035】

【図1】 実施例1の肩ベルトの部分平面図。

【図2】 肩ベルトの部分正面図。

【図3】 図1のA-A線拡大断面図。

【図4】 肩ベルトを適用した子守帯の斜視図。

【図5】 肩ベルトを左肩に掛けた子守帯の使用状態を示す斜視図。

【図6】 肩ベルトを右肩に掛けた子守帯の使用状態を示す斜視図。

【図7】 実施例2の肩ベルトの使用状態を示す斜視図。

【図8】 肩ベルトの部分平面図。

【図9】 開き量調整手段の一例を示す同平面図。

【図10】 開き量調整手段の他の例を示す同平面図。

【符号の説明】

【0036】

1、12…肩ベルト

3a…連繫ベルト（肩掛止ベルト部分）

4…パッド

12a…肩掛止ベルト部分

13…スリット又は開口

15…止め具

2…肩ベルトパーツ

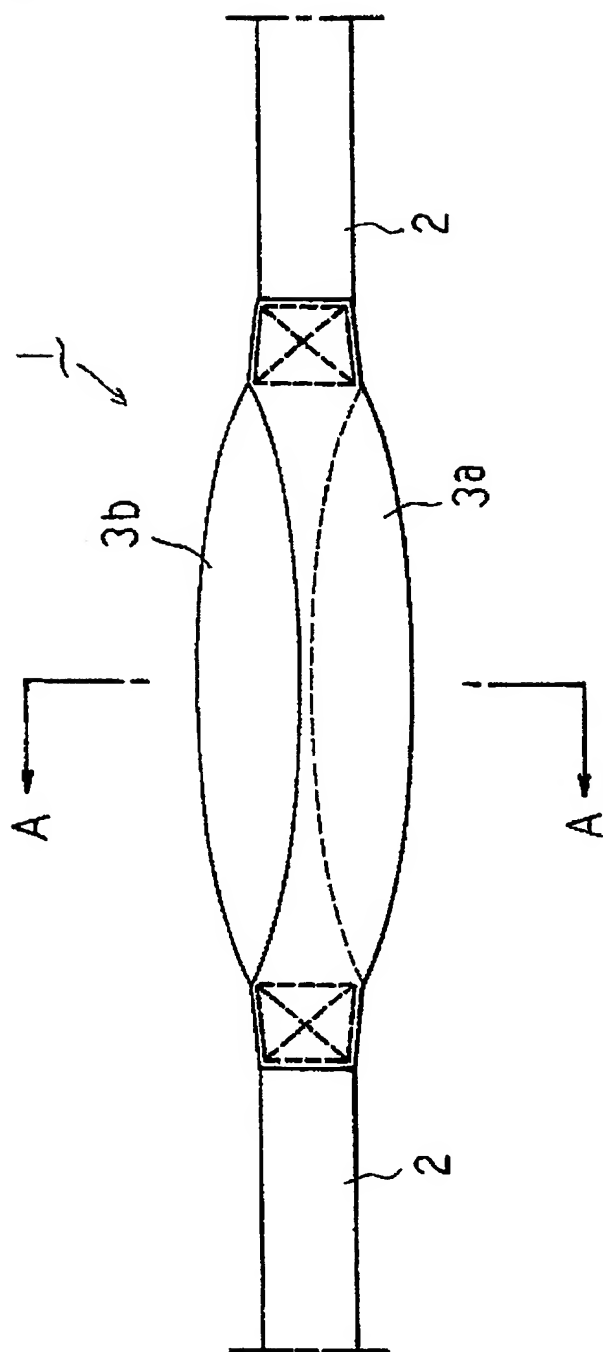
3b…連繫ベルト（上腕掛止ベルト部分）

5…子守帯

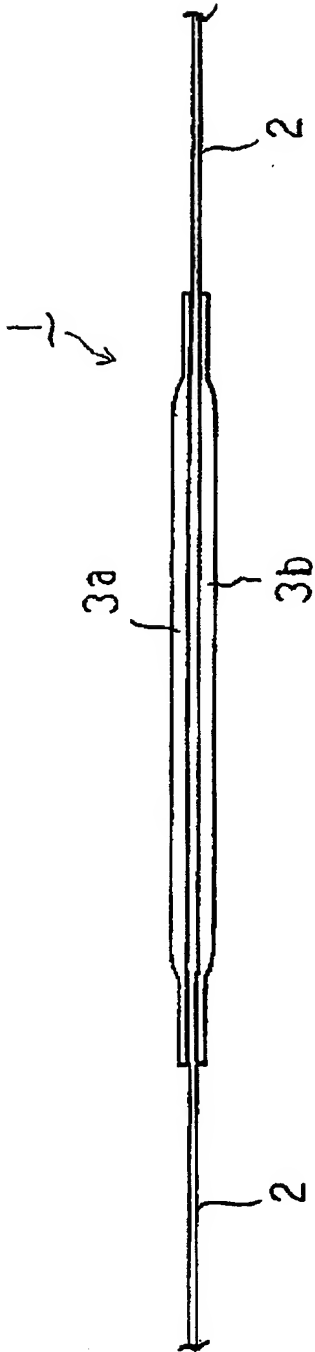
12b…上腕掛止ベルト部分

14…ストッパ付きファスナー

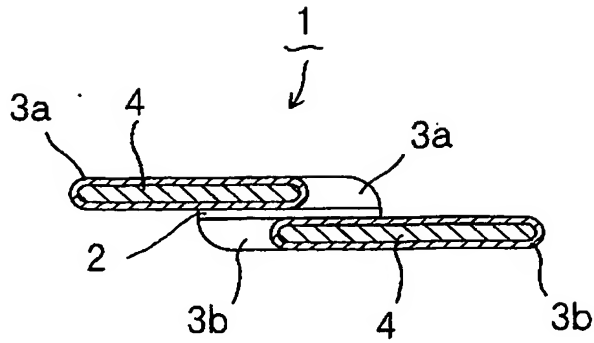
【書類名】 図面
【図 1】



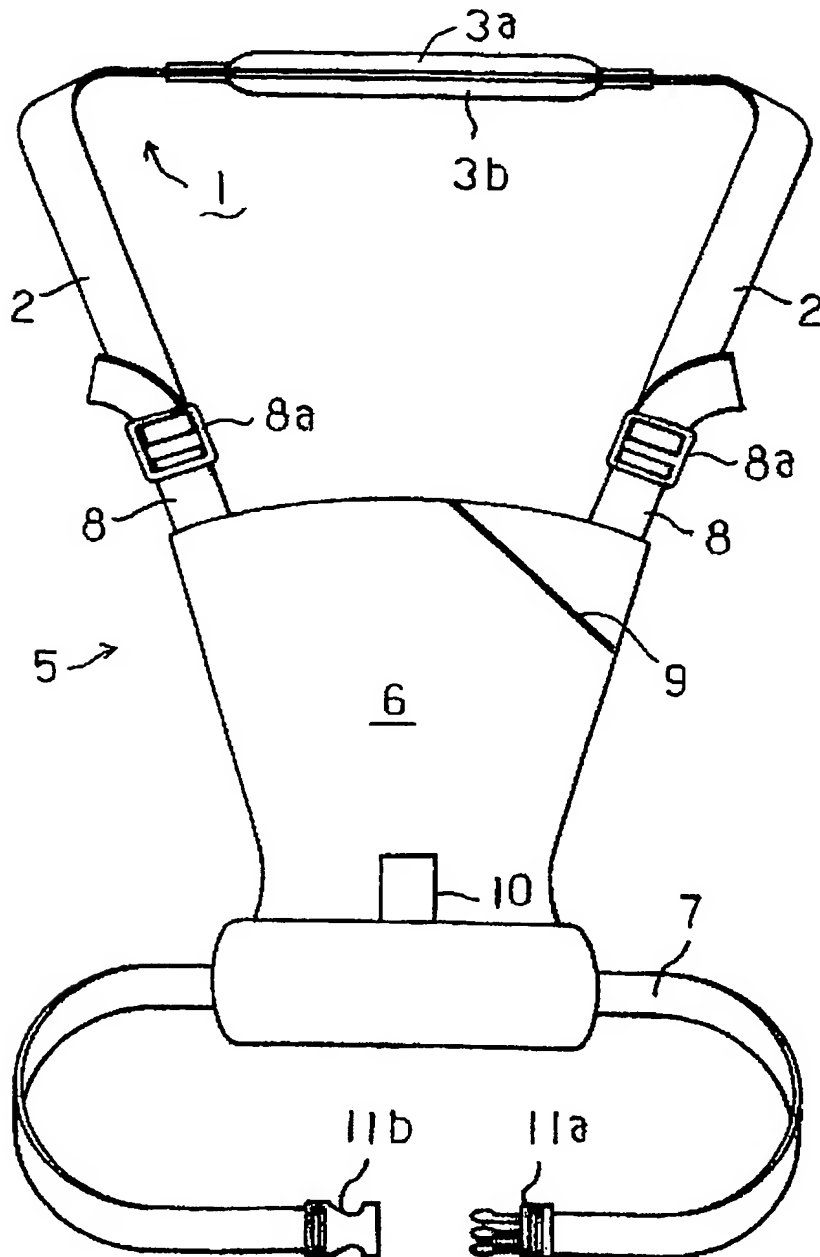
【図 2】



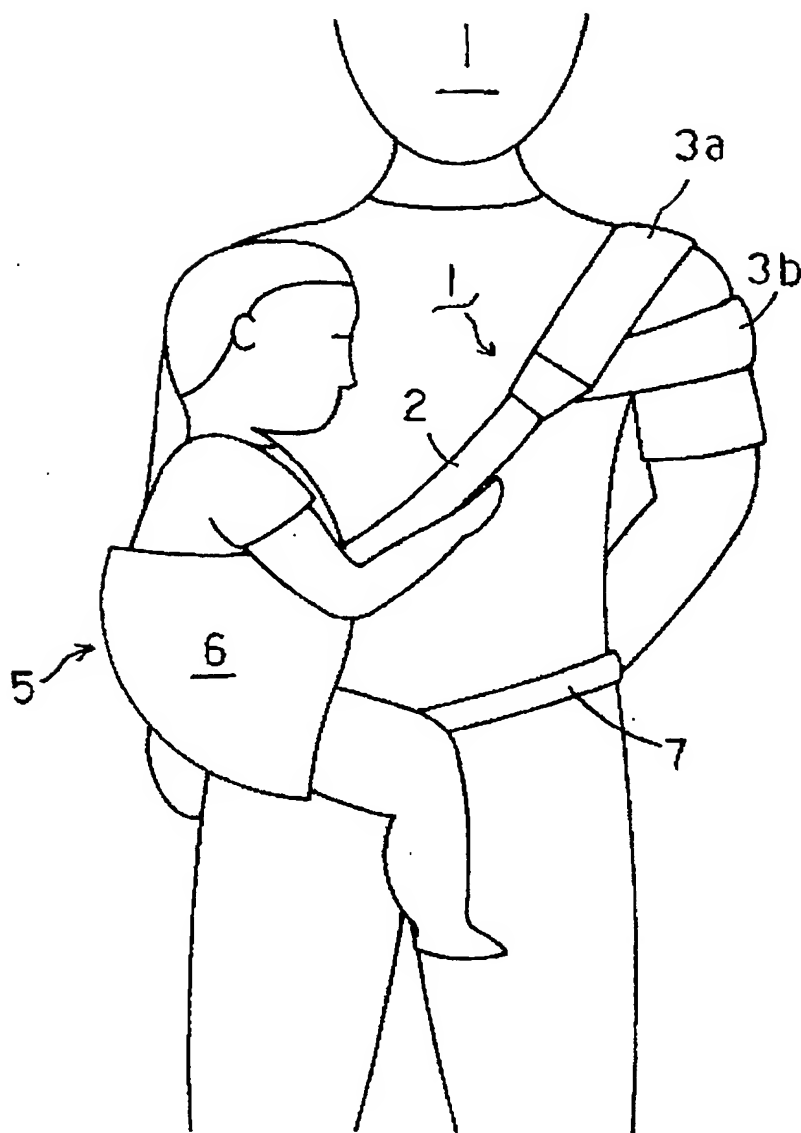
【図 3】



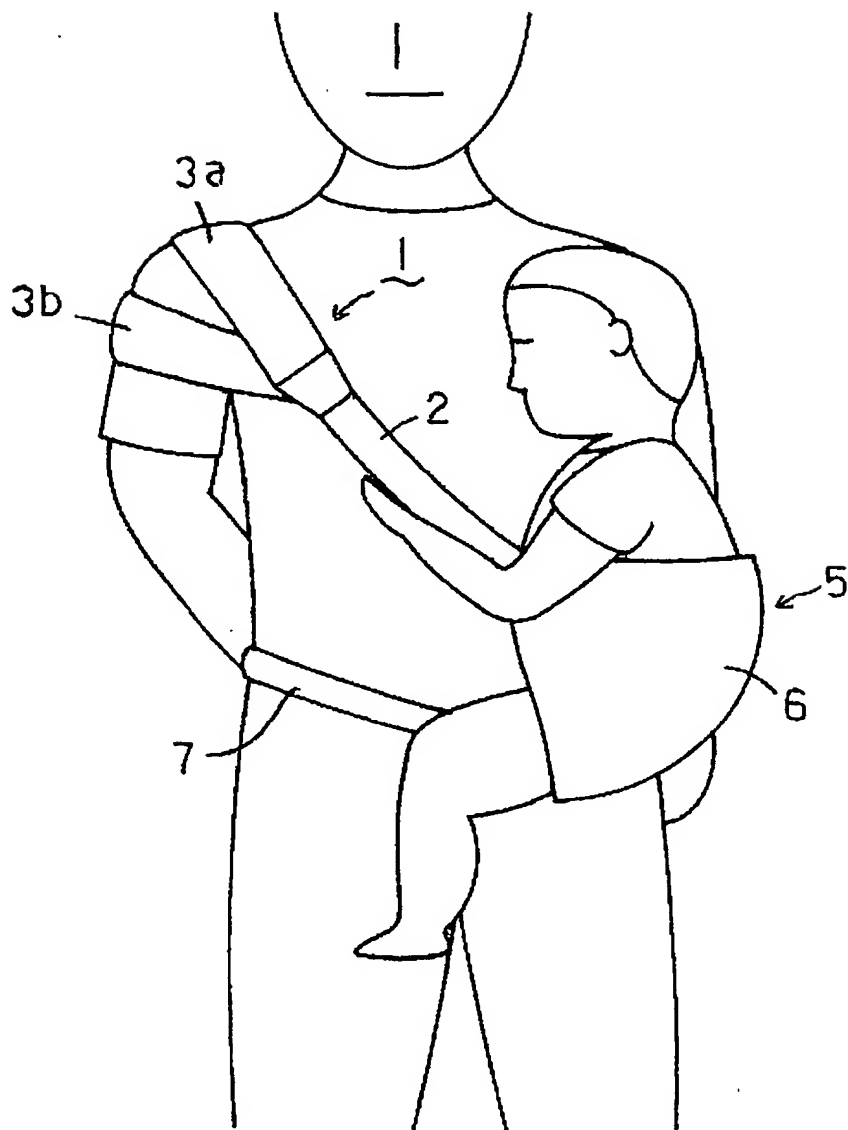
【図 4】



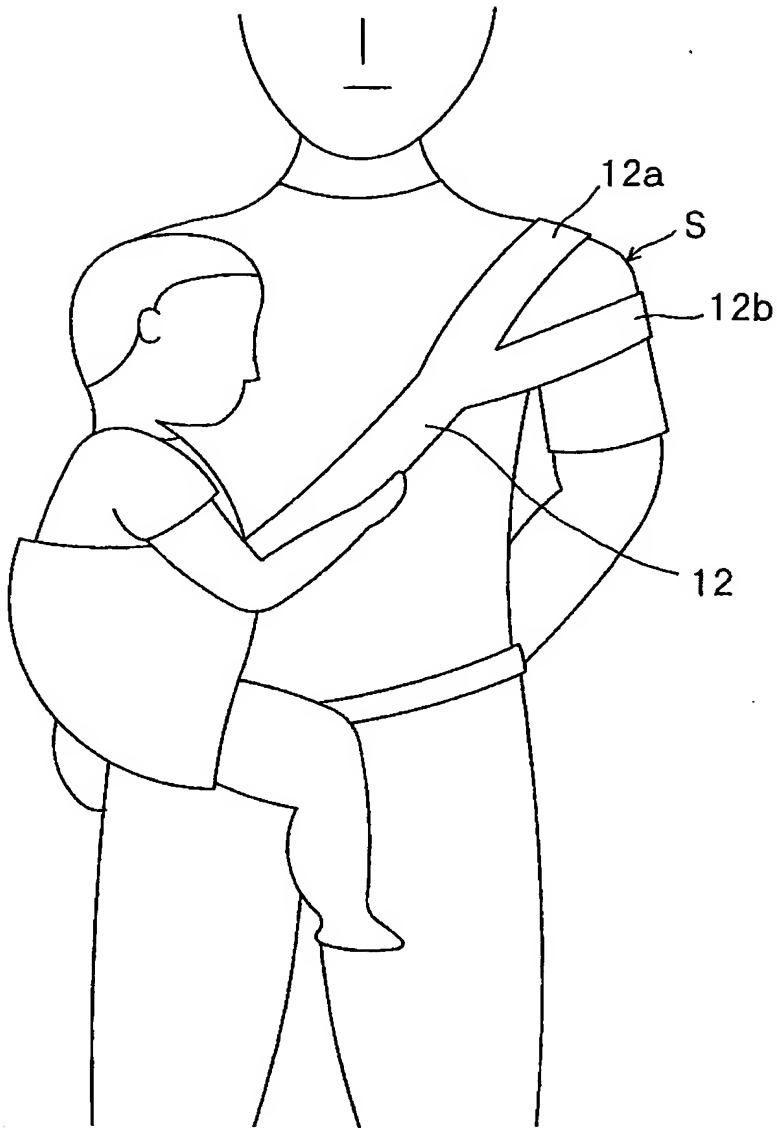
【図 5】



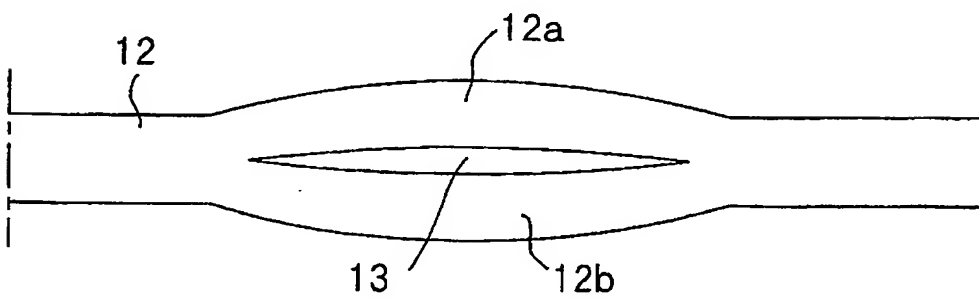
【図6】



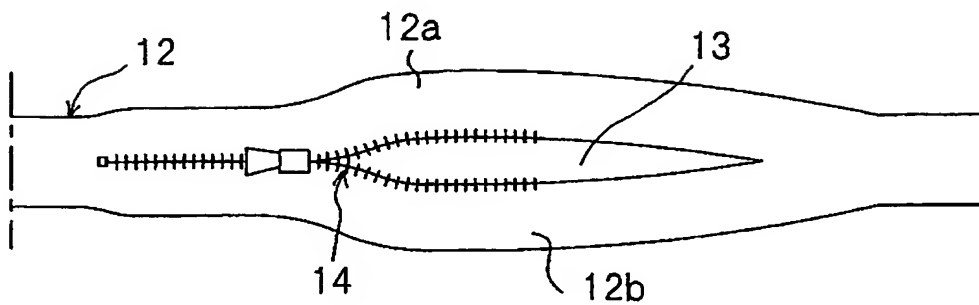
【図 7】



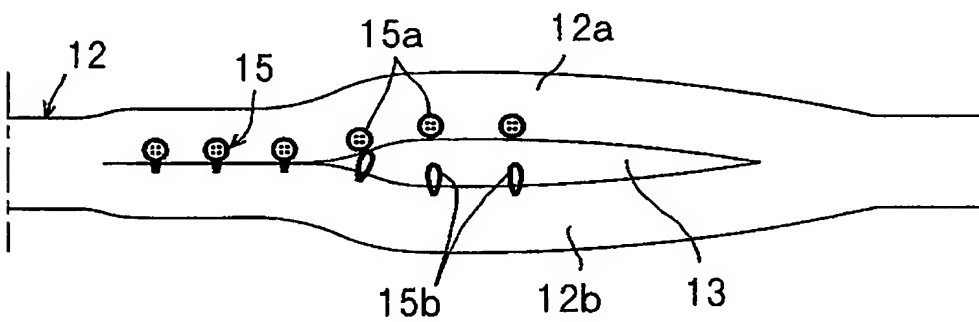
【図 8】



【図 9】



【図 10】



【書類名】 要約書

【要約】

【課題】 集中的に荷重が掛かるのを解消し、苦痛を感じることなく快適に使用することができる肩ベルトを提供する。

【解決手段】 斜め掛けに一方の肩に掛ける肩ベルトであって、該肩ベルト 1 の途中に、肩先 S を挟んで肩上面に掛かる肩掛止ベルト部分 12 a と、肩先 S 近傍の上腕外面に掛かる上腕掛止ベルト部分 12 b を備えている。

【選択図】 図 5

特願 2003-340204

出 願 人 履 歴 情 報

識別番号

[000228051]

1. 変更年月日

2003年 8月11日

[変更理由]

住所変更

住 所

東京都千代田区一番町10番15号

氏 名

日本エイテックス株式会社

2. 変更年月日

2003年11月12日

[変更理由]

住所変更

住 所

東京都文京区千駄木4丁目11番10号

氏 名

日本エイテックス株式会社